広報きょうたんご
vol.69
2009
平成21年
12月号

丹後ちりめんの里をPR

丹後ちりめんを使用した看板がお目見え（大宮町周枳）

ズワイガニ（オス）の競り状況

ズワイガニ（メス）の競り状況

冬の味覚の王様
カニ漁解禁

＝間人・浅茂川漁港で初競り＝

京都府北部のカニ漁の解禁を迎えた十一月六日、間人漁港と浅茂川漁港で、捕れたてのズワイガニの初競りが行われ、競り場は訪れた関係者で賑わいました。

環境と資源に配慮して営む漁業に与えられる世界的な認証制度「MSC（海洋管理協議会）漁業管理認証」を取得されている市内の六隻の底曳（そこびき）網漁船が徹夜の操業を終え、六日午前十時ごろ続々と帰港。陸揚げされたカニは、乗組員や帰港を待ちわびた家族、従業員のみなさんが甲羅の大きさだけでなく、足の長さ、色、形、傷の有無など厳しい目で選別し鮮度を保つために氷を敷き詰めたシートの上に並べられると、競り場一面がカニで埋め尽くされました。

午後一時、競り人の威勢のよい掛け声で初競りが始まると、仲買人のみなさんが次々と競り落とす様子に、宿泊業者や観光客らの視線は、くぎ付けになっていました。

初日の両漁港の漁獲量は、雄ガニが〇・九七㌧（約千四百匹）、雌ガニが五・三〇㌧（約三万千六百匹）。雄ガニの最高値は両漁港ともに五匹で十三万円でした。

カニの漁期は、雄ガニが来年の三月二十日まで、雌ガニが来年の一月十日までとなっており、その間「日帰り漁」で鮮度を保ちながらのカニ漁が行われます。

間人漁港から出港する底曳網漁船

初漁へ出港

解禁前日の5日、好天に恵まれ波も穏やかな中、間人漁港からは5隻の底曳網漁船が出港しました。午後8時30分ごろには、ご家族などが同漁港で、今シーズン最初のカニ漁の出港を見送られました。また、地元で地域活性化に取り組んでいる「間人こころ実行委員会」（今井龍代表・17人）により、100基の「こころ灯籠」が道路から漁港内に並べられ、漁師のみなさんの安全が祈願されました。

各漁船は丹後半島沖約25㌔で待機し、午前零時の解禁と同時に一斉に網を入れて操業を開始しました。

ズワイガニの豆知識

山陰地方の日本海側（京都府・兵庫県・鳥取県・島根県）で水揚げされたオスのズワイガニが「松葉がに」と呼ばれています。また、「間人ガニ」や「越前ガニ」といった呼び方は、その地域で捕れたズワイガニに「地域名」をつけて独自のブランド化を図っています。

メスのズワイガニは、「セコガニ」や「コッペガニ」と呼ばれています。京丹後市観光協会のゆるキャラで知られる「こっぺちゃん」はコッペガニからネーミングされています。

もくじ

水産振興
・冬の味覚の王様　カニ漁解禁 …… 3
教育
・竹野小学校の間人小学校への統合に向けて …… 4
・高龍中学校　駅伝大会優勝 …… 5
・平井嘉一郎文庫コーナー開設（大宮図書室）…… 5
産業祭
・各地域で産業祭・文化祭を開催 …… 6
観光振興
・山陰海岸ジオパーク　世界ジオパークへの申請決定 … 8
・観光まちづくりフォーラム in 京丹後開催 …… 9
農業振興
・京丹後市農業経営者会議を設立 …… 10
都市農村交流
・農家民泊セミナー …… 11
産業振興
・国内最大級の和装イベント「日本染織文化博覧会」に出展 … 12
・森田治良兵衛翁慰霊祭 …… 13
広域連携
・豊岡市との合同会議 …… 14
・中日本海交流会議 …… 15
表彰 …… 16
安心・安全
・京丹後市総合防災訓練 …… 18
・弥栄町ふるさと安心安全ステーション発足 …… 19
安心・安全
・地域ぐるみの防犯活動 街頭啓発実施 …… 20
・京丹後市防火予防ポスター …… 20
・防災啓発ポスター …… 21
保健福祉
・京丹後市戦没者追悼式 …… 22
・丹後いきいきSKYの集い …… 22
イベント
・国際交流演奏会 …… 23
・秋のブナ林観察会 …… 23
京都府のひろば …… 24
誌上経営セミナー
・事業者のみなさんを支援します …… 25
ブロードバンド
・光インターネットやケーブルテレビの利用始まる … 26
・光ケーブル引き込み工事　概要のお知らせ …… 27
除雪
・除雪へのご協力をお願いします …… 28
まちの情報 …… 29
ご意見箱 …… 30
下水道 …… 32
市立図書館 …… 33
地域振興
・60のつどいを開催 …… 34
・蒲井・旭地域の振興に向けて「いっぺん庵」竣工 … 35

サッカーU-18

日本代表に正式決定!!

峰山高等学校三年　荻野賢次郎君

峰山高等学校三年生サッカー部の荻野賢次郎君が、十月二十二日に㈶日本サッカー協会から正式にU-18（十八歳以下）の日本代表に指名され、二〇一〇年にあるアジアサッカー連盟（AFC）U-19選手権大会の予選ラウンドに向けた壮行会が十月二十六日、同校で開かれました。

U-18の日本代表チーム（二〇一一年に開催される「国際サッカー連盟（FIFA）U-20ワールドカップ」の出場を目標としたチーム）の選手が発表され、ゴールキーパーには三人の選手が決定。その一人に荻野君が選ばれました。

壮行会では、全校生徒約八百人が集まり、茂籠（もろ）宏副校長が「今回の代表選手で、唯一高等学校から選ばれたことは、全国の高等学校サッカー部員に目標や勇気を与えてくれる。悔いのないようにがんばってほしい」と激励。生徒会長の西村理世さんから「活躍を心より期待しています」とメッセージが送られました。荻野君は「みなさまへの感謝を忘れず日本代表として日本のゴールを守っていきたいです」と決意を述べられました。また代表の決定に対して、同校サッカー部の藤原公平監督は「六月に行われた日本代表候補のトレーニングキャンプ後から、練習に対する目的意識が変わってきた。意欲的に学ぼうとする姿勢が評価されたのでは」と話されました。

荻野君は、十一月二日～十八日にインドネシア・バンドンで開催された「AFC U-19選手権大会二〇一〇 予選ラウンドグループF」の第一試合に出場するなど、実践経験を積み奮闘されています。

自分の持ち味である、スピードと積極的なプレーを活かしゴールを守りたいと決意表明をする荻野君

教育

学校再配置

来年四月の統合に向けすでにさまざまな取り組み始まる
子どもが主役

来年四月から竹野小学校を間人小学校に統合

京丹後市立学校条例の一部改正案が九月定例市議会で可決され、竹野小学校を平成二十二年四月に間人小学校へ統合することになりました。現在、竹野小学校の児童数は二十五人で五、六年生が複式学級、平成二四年度には複数の学年が複式学級となる見通しとなっていました。統合に伴い、平成二十二年度の間人小学校の児童数は百五十六、学年別では一年生が十九人、二年生が二十二人、三年生が二十五人、四年生が三十三人、五年生が三十人、六年生が二十七人となります。

多くの児童の成長を見守ってきた竹野小学校

統合の経過

平成十九年七月に丹後地域でも学校再配置検討分科会が設置され、「子どもの成長にとってどのような教育環境がよいのか」という視点で七回の検討が行われました。また、市全体の学校再配置検討委員会でも十回にわたり慎重に審議いただき、平成二十年十一月に答申が出されました。

その答申をもとにその後、教育委員会では「学校再配置計画」を作成して説明会を開催。さらに市と市教委で「学校再配置基本計画」素案を作成し、再び説明会を行いました。

交流学習でみんなが仲間

来年四月からお互いの児童が仲よくできるように竹野小学校と間人小学校では、すでにさまざまな交流事業を実施しています。全校児童を対象にした行事や、学年ごとに分けての学習も統合までに行います。十一月十日時点では、一年生では生活科目授業で落ち葉拾いなどの「秋さがし」行われ、四年生では網野郷土資料館への社会見学が行われるなど、児童間の交流を深める取り組みが行われています。

全体の学校再配置の動き

市内全体の学校再配置の今後の動きとして、現在実施中の耐震診断の結果を踏まえ、学校再配置計画を再検討し、説明会や広報などを通し、各校区のPTAや関係地域のみなさんの理解を得ながら、進めていきたいと考えています。なお、耐震診断の結果が出そろうのが、どうしても年末から年度末になりますので、計画の再検討案が策定、ご説明できるのは本年度末前後以降となる見込みです。

また、新しい教育システムについても研究し、よりよい教育環境を整えていきます。

母校の想い出づくり

竹野小学校の児童の保護者や地域のかたが話し合い、来年閉校する小学校の思い出を残そうと、記念航空写真を撮ることを決定。晴天の10月21日、在校児童と教職員、保護者や地域のかた170人が、竹野小学校の「校章」である六角形の星形を型に人文字をつくりました。

人文字で竹野小学校の校章づくり

全校児童が給食交流会

交流行事のひとつとして、竹野小学校の全校児童と間人小学校全校児童との交流給食会が、11月4日、間人小学校ランチルームで行われました。学年ごとに分けられたテーブルに間人小学校の児童が竹野小学校の児童を招き入れ、お互い、にぎやかに昼食を楽しみました。

両校の児童が給食で交流

教育

高龍中学校駅伝部（男子）京都府中学校駅伝で三度目の優勝

全国中学駅伝へ

次の大会へ向けて一人ひとり、決意表明しました
左から1区：能勢浩介君、2区：山本翔平君、3区：西牟田伊織君、4区：前田透要君、5区：岡田悠希君、6区：井上寛二君、登録メンバー［山下松高君、山下拓海君、芦田翼君］（府中学駅伝）

第六十回京都府中学校男子駅伝競走大会が、十一月十五日、丹波自然運動公園（京丹波町）で開催され、高龍中学校の駅伝部男子が、三年ぶり三度目の優勝を果たしました。

同駅伝大会は、六区間一八・五キロのコースで行われました。優勝を果たした高龍中学校の駅伝部男子は、一本のタスキを胸に各区間の選手が力を出し切り、五十九分二十八秒のタイムでゴールしました。

また、同駅伝部のみなさんが十一月二十日、同駅伝大会の結果報告と、十二月六日に開催される近畿中学校総合体育大会・駅伝競走の部（兵庫県三木市）および同月十九日に開催される全国中学校駅伝大会（山口県山口市）への出場を報告するため、中山市長を表敬訪問。中山市長から「高龍中学校の駅伝の強さの秘訣は」の問いに、能勢浩介主将は「チーム内で譲り合いがないように、みんなで競い合いながら練習をすることが大事だと思っています」と説明されました。また、「多くのかたの応援があったからこそ優勝できました。近畿、全国大会では京都、丹後の代表として全力でがんばりたい」と両大会への決意を語りました。

未来をひらく子どもたちへ

市立大宮図書室内

平井嘉一郎文庫コーナー開設

平井文庫絵本の読み聞かせを実施

開所を祝してテープカット（中央・平井信子さん）

ニチコン㈱の創業者である大宮町善王寺出身の故平井嘉一郎さんのご遺志により、多額のご寄付をいただき、市立大宮図書室（大宮町口大野）に「平井嘉一郎文庫コーナー」を設置。その開所式が11月3日、同図書室で行われました。

故平井嘉一郎さんは、電子部品製造会社のニチコン㈱（京都市中京区）の創業者として、五十年間社長をお務めになり、平成十三年に九十三歳で亡くなられました。平井さんは生前から、少子化対策、子育て支援活動を続けてこられました。そのご遺志を妻の信子さんが引き継がれ、今回、子どもたちの健全な育成を図るための図書購入費として多額のご寄付をいただきました。市教育委員会では、いただきましたご寄付の趣旨により、約七百冊の児童書を購入。併せて大宮図書室に文庫コーナーを設置するための書棚やソファーなどもご寄付いただき、親子でくつろいで読書に親しんでいただける空間が完成しました。

約七十人の親子が集まった開所式で、中山市長が「平井さんの温かい大きな心で形になったこの文庫コーナーで、子どもたちの夢や希望を育んでほしい」とあいさつ。寄贈者の信子さんからは「今後も図書室の充実を図るために毎年、図書を増やしたい。そのことが、お子さんを育てるうえで安心につながると思います」とお言葉をいただきました。また、図書室の利用者の代表として大宮町周枳の中江由季さんが「図書館室を利用する楽しみが増えました。今まで以上に図書室を利用していきたい」と感謝の言葉を贈られました。

「平井嘉一郎文庫コーナー」をはじめ、図書館（室）のご利用をお待ちしています。

11月1日
2009気張る！ふるさと祭り
（丹後庁舎周辺）

新鮮な地元の物産がずらりと並ぶ即売コーナーやフリーマーケットのほか、城嶋太鼓や地元アマチュアバンド、間人中学校ブラスバンドのステージが披露されるなど、大いににぎわいました。

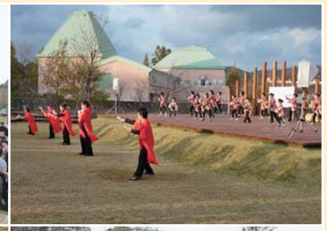
会場では、地元産キスのつみれの入ったモヤイ鍋が、丹後町漁業協同組合のみなさんによりふるまわれるなど、参加されたかたは旬の味覚を堪能されました。

11月7日・8日
京丹後商工祭
（丹後・知恵のものづくりパーク）

今年が初めての開催となる「京丹後商工祭」を、丹後・知恵のものづくりパーク（峰山町荒山）で2日間にわたり実施。網野高等学校新体操部のみなさんによるアクロバットショーや、「丹後天下一武道会」と称したテレビゲーム大会などで、会場は終始盛り上がっていました。

11月15日
09 弥栄秋の祭典（収穫祭）
（丹後あじわいの郷）

弥栄町内で収穫された新鮮な野菜や特産品を、軽トラックで持ち込み販売する「軽トラ市」を開催。ステージでは「よさこい踊り」の披露やもちまきのほか、丹後あじわいの郷による大ビンゴ大会も開催され、活気にあふれました。



魅力あふれる　京丹後の秋
～各地域で産業祭・文化祭を開催～

10月・11月には、各地域で産業祭や文化祭などが開催され、それぞれの地域で“京丹後の秋”が華やかに彩られました。各地域とも伝統や特色あるさまざまな催しが行われ、活気と多くの人出でにぎわいました。

10月25日
第19回
久美浜まるかじりまつり
（アメニティー久美浜公園）

「見て楽しい・買ってうれしい一万人のフリーマーケット～元気 印 久美浜」をメインテーマに開催。農林水産物の展示・即売をはじめ恒例の大漁鍋や山賊鍋がそれぞれ600食ずつ無料で振るまわれるなど大盛況。

また、釣り堀や梨の皮むき競争なども催され、多くの来場者が地域の魅力を存分にたん能されました。

10月25日
ちりめん丹後夢よさこい
（大宮織物ホール周辺）

京丹後市内のよさこいチームが会して、色とりどりの衣装でパフォーマンスを披露。

また、京丹後市商工会女性部のみなさんが染め上げた丹後ちりめんを使った、ちりめんの産地をPRする看板がお目見えしたほか、七五三を迎えるお子さんの着物ショーなども開催され、観客を魅了しました。

11月1日
おおみや
生き活きフェスタ2009
（大宮庁舎周辺）

「みんなで創ろう、元気な大宮」をコンセプトに、環境にやさしい手づくりのイベントとして、元気な人、文化、産業など、まちを発信。村づくり委員会・商工会などによる「屋台村」や、積み木体験コーナー、各種ステージでの催しなどで、大いににぎわいました。

「世界の公園」への大きな一歩
山陰海岸ジオパーク、世界ジオパークへの申請を決定。

「日本列島がアジア大陸の一部だった時代から、今日に至るまでの経過を確認することができる貴重な海岸」と賞される山陰海岸ジオパークが、世界ジオパークの候補地として認定されたことを受け、山陰海岸ジオパーク推進協議会では、十二月一日、「世界ジオパークネットワーク」に加盟申請しました。

昨年十二月、山陰海岸が地質学的に重要な地層や地形を有しているとともに、その保全や活用などが積極的に取り組まれていることが評価され、山陰海岸ジオパークが誕生してから一年。小・中学生への体験学習やジオツアーの実施など、関係者のみなさんの地道な努力の結果、十月二十八日、世界ジオパークネットワークへの推薦機関となっている日本ジオパーク委員会（委員長・尾池和夫国際高等研究所長）は、今年度全国で唯一、山陰海岸ジオパークを世界ジオパークの候補地に認定しました。

この決定を受け、山陰海岸ジオパーク推進協議会（会長・中貝宗治豊岡市長）は、十二月一日、世界ジオパークネットワークに加盟申請書を提出しました。

推進協議会事務局を開設

また、推進協議会では、より広域的な連携および取り組みを推進するため、新たに兵庫県豊岡総合庁舎（豊岡市）内に専用の事務局を開設して体制を強化しました。

今後は、来年五月以降に予定されている世界ジオパークネットワークによる現地審査も視野に入れ、地質遺産に物語性を持たせて分かりやすく案内できるボランティアガイドの養成、総合案内板の設置などの活動を進めるとともに、ジオパーク活動をとおして地域経済の活性化と環境保全・推進を図り、持続可能な地域社会の発展につなげていくことを目的に活動を進めていくこととしています。

推進協議会事務局を開設しました

琴引浜鳴き砂文化館にジオパークコーナー

国の天然記念物・名勝に指定され、鳴き砂で有名な琴引浜。その鳴き砂をテーマにした「琴引浜鳴き砂文化館」では、今春からジオパークコーナーを設置し、山陰海岸ジオパークを分かりやすく説明したパネルや京丹後市内の地質遺産で採取した岩石などを展示しています。また、鳴き砂をとおしてジオ（地球・大地）の魅力を聴覚で感じるという貴重な体験もできますので、ぜひ一度お出かけください。

お問い合わせ先：琴引浜鳴き砂文化館（☎72-5511）

市民総出の

『極上のふるさと観光づくり』で観光立市の実現を！

観光まちづくりフォーラムin京丹後 開催

市や観光業者、そして市民のみなさんが一体となって観光まちづくりについて考え、おもてなしの意識を高めることを目的に、十月二十三日、丹後あじわいの郷（弥栄町鳥取）で「観光まちづくりフォーラムｉｎ京丹後」（京丹後市観光協会など主催）が開催されました。

パネルディスカッション「極上のふるさと観光づくり」

市では、市域の豊富な観光資源を活かした観光振興を推進するため、今年三月に「京丹後市観光立市推進条例」を制定、六月には「京丹後市観光振興計画」を策定し、観光業者のみならず各関係業界、市民のみなさんなどが観光立市の実現という共通の目標に向かって、「極上のふるさと観光づくり」の取り組みを始めています。

このような中、同フォーラムでは、網野高等学校の生徒によるプレゼンテーションや、京都嵯峨芸術大学デザイン学科の坂上英彦教授による講演、さまざまな業種のかた七人が意見を交換するパネルディスカッションなどをとおして、約二百人の参加者が丹後の活性化のあり方について思いを巡らせました。

記念講演「丹後のふるさと観光」

坂上教授による「丹後のふるさと観光」をテーマとした講演では、「今までの観光は、（テレビや雑誌などで）見てすでに知っているものを確認しに行く、いわゆる『確認観光』が主だった。これからは、その地に暮らす人々の生活の豊かさを味わい、すばらしさを発見しに行く『生活観光』の時代だ」としたうえで、「丹後はほんまもんのふるさとがある恵まれた地域。特に食の素材は世界でもかなりのレベルにある。〝味の極上地づくり〟をめざしていこう」と丹後の観光の可能性を強調されました。

パネルディスカッション「極上のふるさと観光づくり」

パネルディスカッションでは、ＮＰＯ法人全国まちづくりサポートセンター、京丹後㊟おかみさんの会、京たんごプロジェクト4、京丹後市きもの交流会、近畿日本ツーリスト、京丹後市観光協会、京丹後市商工会の各代表のみなさんが、丹後地域の観光に関する取り組みの今後の方向性などについて意見交換。

「市内各地にたくさんのいいものが点在している。だが、それらを線で結んでくれる人がいない。だれが結んでくれるのかと考えると、われわれ市民だけではなく、行政も一体となった取り組みがこれからは特に必要」「我々（旅行社）がいくら旅行客に受けそうな企画を考えたところで、まったく外れてしまう。やはりお客さんの意見を取り入れることが大事。丹後は売れる要素を持っていると思うので、あとはどんなテーマを設けてどういうコンセプトで何を前面に押し出していくかだ」といった建設的な意見が多数出されたほか、各分野間の連携の必要性も叫ばれるなど、非常に中身のある議論となりました。

フォーラム終了後には、猪肉や鹿肉などの地元食材を活用した、丹後あじわいの郷の料理の試食会が行われました。

丹後あじわいの郷協力会　発足

同日、市観光協会や市商工会などが参加する「丹後あじわいの郷協力会」が発足しました。

同協力会は、人・物・情報の交流拠点である丹後あじわいの郷を地域を挙げて活用し、農林水産業や観光産業、織物産業などのさまざまな地域の魅力を結集・発信して、丹後地域の活性化を推進することを目的としています。

今後は、講演会の開催などをとおして、地元産業の魅力の発信や、ふれあい・交流の場づくりに取り組むこととしています。

丹後の農業に新たな風を

農業所得の向上に期待！

京丹後市 農業経営者会議 設立

市内の認定農業者や集落営農登録組織で構成される「京丹後市農業経営者会議」の設立総会が、十一月十日、丹後あじわいの郷（弥栄町鳥取）で開催れ、同会議に賛同する会員のかたの農業経営の改善を支援することや食育活動の推進などに取り組み、市内の農業振興を進めていくことが確認されました。

設立総会であいさつをする吉浪会長

農家組織の一本化

京丹後市内には、合併前から各町に認定農業者などで構成される農家組織があり、各町ごとに特徴ある農業を展開していました。

しかし、京丹後市発足後、旧町の認定農業者組織は活動が衰退し、情報交換の場となる横のつながりや統一した農家の提言、要望を取りまとめる枠組みがない状況がありました。

広域合併を機に、丹後の農業についても旧町の枠を超えて市レベルで考えていかなければ、現在の農業・農政の流れに立ち遅れるのではとの懸念がありました。

このため、認定農業者である、丹後町の野木武さんや網野町の野村拓也さんなどが、市内の認定農業者や集落営農登録組織に呼びかけ、認定農業者などを中心に、組織化のための話し合いを進めてこられました。

丹後の農業の可能性を探る

同会議は、会員の農業経営の改善を支援し、環境にやさしい農業および食育活動の推進に取り組み、京丹後市全体の農業振興に寄与することを目的として設立されました。

初代会長に選ばれた吉浪芳郎会長は「会員のみなさんとともに、お互い励まし合い、協力し合いながら丹後の農業に新しい風を吹き込んでいきたい」と活動への意気込みを話されました。

同会議には、十一月十日現在で、市内全体の認定農業者百五十三人のうち六十人が加入、また集落営農登録組織は市内全体の十八組織のうち六組織が加入されています。

今後、同会議は農家の共通課題への取り組みや会員相互の情報交換、行政に対する政策提言を取りまとめる場として活動されるとともに商工関係の団体と連携して、新たな流通の仕組みづくりの検討や市全体の収穫祭を企画されるなど、さまざまな取り組みが期待されます。

実践報告

会社運営の実情を説明

㈱インスフィアファーム
代表取締役社長
松井信吾さん

設立総会のあと、「インスフィアファームの生い立ちと経営戦略について」と題した講演を実施されました。

同社は、ミズナやコマツナなどの葉物野菜の幼葉の「ベビーリーフ」を生産・販売されており、販売開始から1年半で月間売上高280万円を上げています。講演の中で、商品開発での客のニーズの把握や価格設定においては原価（材料費・労務費・設備費）を推測し商品原価を計算することが必要であるなど、経営戦略の流れと人材の発掘・育成について、分かりやすく話されました。

京丹後型農家民泊を考える 農家民泊セミナー 開催

都市の人々が農山漁村に滞在して、稲刈りや野菜の栽培体験を通じて、地域の人とのふれあいなどを楽しむ「農家民泊」について話しあうセミナーが、十一月十一日、京丹後市農山漁村体験型協議会（由利進会長）の主催により大宮町内のホテルで開かれ、講演や関係者によるパネルディスカッション（討論会）が行われ、参加者約六十人が熱心に聞き入りました。

全国各地の農家民泊の事例を紹介する井上弘司さん

基調講演

基調講演は、国土交通省の観光カリスマ百選に選ばれている地域再生診療所の井上弘司所長が「地域の元気を紡ぐツーリズム」と題し実施。井上所長は「京丹後型のツーリズム（滞在体験型余暇活動）はどういう方向をめざしているのかをみんなで話し合い共有することが大事。地域の魅力を都市へ向けきちんと情報発信することが必要でそのひとつの方法としてツーリズムがあり、若者が働ける環境をつくっていくことこそが京丹後型のツーリズムのめざすべき姿」と強調されました。

パネルディスカッション

地域コーディネーターの永田麻美さんの進行でグリーン・ツーリズム関係者六人［京丹後市内から、由利進さん（体験工房「季楽里（きらり）」代表）、日達ゆみ子さん（農家民宿「温古里（ほっこり）」代表）、猪隼一雄さん（「宇川温泉よし野の里」企画開発室室長）］がパネラーとして参加。それぞれの取り組み状況を発表され、「地域のかたを引き込んで活動ができるように取り組んでいきたい」など、京丹後型ツーリズムへの展開について熱心に意見交換されました。

市内観光施設の代表者などによるパネルディスカッション

生産者とのふれあい

府立医大が体験交流を企画

市内の農業収穫体験や生産者との交流を図る取り組みが、10月24日・25日の2日間、京都府立医科大学（京都市上京区）と京都府立大学生活協同組合（京都市左京区）の共同で実施され、同大学の学生28人が、京丹後市内を中心に生産者のかたとの交流を図りました。

市内の生産者と笑顔で交流

「農」「畜」「食」を学ぶ

この取り組みは、昨年春より府立医科大学生協のレストランや売店で販売する弁当に使用することとなった「京丹後産コシヒカリ」や「タマネギ」などの農産物を、毎日食べている生協会員と生産者との交流を通じて、農業や酪農および食の安全への関心を深めようと、農業体験・収穫体験ツアー実行委員会（入江静夏会長）により実施されました。

生産者である京丹後市内の農家を中心に、さまざまな生産者との交流体験を企画し、ダイコンなどの収穫体験、酪農農家ではバターづくりにも挑戦されました。

参加された学生のかたは「初めての体験で楽しい」、「焼き芋が甘くておいしかった」など楽しそうに話されました。

また生産者のかたからは「こういった取り組みは、生産者にもいい刺激になる」、「食の安心・安全が重要となる中で、本当にいいものをつくり、提供していきたい」と農産物の生産に対する思いを話してくれました。

京都市と丹後地域による初の産地間連携事業

国内最大級の和装イベント「日本染織文化博覧会」に出展

丹後ファッションウィーク開催委員会

市では、日本最大の和装産地・京都市と今年度当初から協議を重ね、和装産業の維持・発展を図る上で、府内の大規模な産地同士が一層密接に連携していくことが大切だと改めて確認。まず、第一弾として、首都圏で初開催された国内最大級の和装イベント、第一回「日本染織文化博覧会」に自治体として唯一、〝特別協力〟団体として出展しました。

来年三月には、第二弾の取り組みとなる京都市のイベント「伝統産業の日二〇一〇」への出展を予定しており、丹後ちりめんに代表される丹後産地の絹織物と、京都市の伝統産業である京友禅のコラボ作品を展示するなどし、丹後の技術力や商品力をPRしたいと考えています。

「日本染織紀行」の催し会場入口正面に設けられた丹後ブース

日本染織文化博覧会は、「着物文化の復興」を掲げて、日本織物中央卸商業組合連合会など全国の染織関連七団体と百貨店などが初めて連携・協力して企画された画期的イベントで、きものの伝統的な染織技術を多角的に紹介することを目的に、十月二十一～二十八日、東京日本橋界隈で開催されました。

期間中は、日本全国の代表的な染織産地から選りすぐりの作品が一堂に会する展示会や、一般のかたにきものを試着していただく体験イベント、さまざまな作品や着こなしを競うきものファッションショー、きものパレードなど、さまざまなイベントが繰り広げられました。

丹後の織物業界、二市二町、京都府および丹後の商工関連団体で組織する丹後ファッションウィーク開催委員会（会長・丹後織物工業組合渡邊正義理事長）では今回、同博覧会の催事の一つで、きものの歴史と文化を再発信し、染織産業の振興を図ることを目的に十月二十三日～二十五日の間開催された展示・販売会「日本染織紀行」に、丹後産地として出展。

丹後はきもの地の〝素（もと）〟となる丹後ちりめんなど、国内白生地生産量の約六割のシェアを誇っていること、また、きものの素材（原点）は白生地であることから、「きものの〝素（そ）〟」をコンセプトに地元の洗練された白生地と完成品のきものを展示し、丹後がきもの地の産地であることの認知度向上を図りました。

また、同じ会場内で本市の織物業者二社が展示販売活動を展開。会期中、生産者の立場で来場者と接し、丹後ちりめんやその製品の魅力を積極的にPRしました。また、全国の層々たる染織産地のブースを見学したり、実際に他産地の生産者のかたがたと交流する姿も見られるなど、積極的に他産地から何かを学ぼうとする姿勢がうかがわれ、丹後産地のPRの場としてだけでなく、出展者の知識習得の機会にもなり、非常に有意義な出展になりました。

府内の産地同士が連携した取り組みを行うのは今回が初めてであり、市ではこれを機に、さらなる連携の推進と、両産地の需要拡大および発展につなげていきたいと考えています。

▲「日本染織紀行」の会場内

▲展示販売ブースでの接客

きものファッションショー▶

織物業と地域の振興を願う

丹後ちりめんの「始祖」森田治良兵衛翁慰霊祭

丹後ちりめんの礎（いしずえ）を築いた森田治良兵衛翁の偉業をたたえる「慰霊祭」が十一月二日、森田翁が眠る常立寺（峰山町吉原）で行われ、参列者は森田翁の遺徳をしのぶとともに、丹後ちりめんと丹後地域のさらなる振興を願いました。

ふりしきる雨の中、丹後ちりめんの始祖森田翁の遺徳をしのび参拝

丹後ちりめんは、享保五年（一七二〇年）、峰山町の絹屋佐平治（後の森田治良兵衛翁）が京都の西陣から撚糸（ねんし・糸に撚りをかけること）技術を持ち帰るとともに、京都での取引先を開拓したことでその基礎が確立され、以来、丹後を代表する地場産業として成長するに至りました。その多大な功績をたたえ、例年、森田翁顕彰会（会長・谷口正博市商工会理事）の主催で、森田翁の命日である十一月三日前後に慰霊祭が執り行われています。

慰霊祭には、商工会や織物業関係者など、約三十人が参列。本堂での追悼に続き、谷口会長が「翁のものづくりに対する進取の精神は、地域全体に脈々と引き継がれているので、英知を結集すれば必ずや織物業再生の糸口が見いだせると信じている。私たちは、翁の築いた遺産にあぐらをかくことなく、地域全体で行動を起こし、明日の地域活性化の実現を図らなければならない」とあいさつされました。

その後、参列者が、境内の森田翁の墓前に参拝。丹後ちりめんの発展に向け、決意を新たにしました。

京丹後はうまい とれたて・食べごろ 旬の食材が満載

朝市直売マーケット『きょうたんご』

京丹後朝市の会

市内で生産されたさまざまな食材や加工品を、生産者などが直接販売し、旬の味覚や安心・安全な食材を提供する「朝市直売マーケット『きょうたんご』」が、11月15日、JA京都峰山支店駐車場（峰山町新町）で開催され、約3,000人の人出でにぎわいました。

旬の野菜や果物、加工品がずらり

同朝市は、市内の農水産物やその加工品の生産者で組織される「京丹後朝市の会」（平林衛代表）の主催により開催。京丹後の優れた食材などを、地元のかたや観光客のみなさんに提供することで、産物のおいしさや安全性についての認識を深めてもらおうと、毎年、取り組まれています。

五回目の開催となる今回は、市内の十九団体が、白菜、大根、カニなどの新鮮で旬な農水産物のほか、漬物や味噌、干物といった加工品など、生産者こだわりの産物をずらりと出品。威勢のよい掛け声が飛び交うなど、朝市ならではの活気や触れあいを楽しむ様子も見られました。

平林代表は「品揃えや商品レベルは年々よくなってきている。今回は観光客のかたも多く、丹後の食材をアピールできた。京丹後には海の幸、山の幸がたくさんあることを伝え、京丹後のおいしさをまるごと出せる朝市にしたい」と話してくれました。

同会では、生産者などが消費者と対面販売することで、直売活動の活性化や地産地消の推進が期待されることから、今後もさらに参加団体を増やし、継続して同朝市を実施することとしています。

豊岡市との合同会議

災害時の相互応援 雇用や企業誘致促進対策で合意

本市と豊岡市が連携・交流を図り相互の地域振興をめざす四回目の「豊岡市と京丹後市の合同会議」を十月二十二日、豊岡市で開催し、「災害時における相互応援に関する協定書」および「雇用および地元企業活動・企業誘致促進対策に関する申し合わせ書」に調印するなど、連携による地域振興や安心・安全の推進を図るうえの、さらなる一歩となりました。

共通課題の解決に向け合同会議（左から中川茂豊岡副市長、中貝宗治豊岡市長、中山泰京丹後市長、米田保京丹後副市長）

同会議は、平成十八年度から定期的に開催。これまで、北近畿タンゴ鉄道やコウノトリ但馬空港の利用促進、山陰海岸ジオパーク構想、図書館の相互利用など、共通の課題について歩調を合わせて取り組んでいます。

災害時における相互応援に関する協定

今回の合同会議では、災害時に、両市が相互に円滑な応援を行うことで、十分な応急対策および応急復旧の実施を図ることを目的に、「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。

これにより、**災害時に職員や消防団など必要な人的応援や物資の提供、被災者の受け入れなどが可能**となり、今後これらを円滑に行える体制づくりをめざします。

雇用や企業誘致などに関する申し合わせ

さらに昨年から共通の課題として確認・検討してきた産業・雇用の分野については、「雇用および地元企業活動・企業誘致促進対策に関する申し合わせ書」に調印しました。これにより、

▼両地域に有する求人情報を共有し、情報端末などにより一体情報として公開する

▼各地域で計画する就職フェアや相談会などで、相互協力および参加に努める

▼各地域の企業誘致活動においては、各地域が有する公共施設や労働人口などを少なくとも両地域一体的に位置づけ、PRに努める

ことを申し合わせ、**両市が一体的に雇用および企業誘致対策に取り組むこと**を確認しました。

日本海沿岸中央域6市が広域連携

若狭・丹後・但馬

敦賀市・小浜市
舞鶴市・宮津市
京丹後市・豊岡市

中日本海交流会議

社会基盤整備などについて共同アピール

日本海沿岸地域の中央に位置する六市（敦賀市、小浜市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、豊岡市）で構成する「若狭・丹後・但馬　中日本海交流会議」が十一月十八日、ベイサイドプレイス　エムズデリ（舞鶴市字千歳）で開催されました。

共通の課題解決に向けて検討

同会議は、日本海沿岸中央域に共通するさまざまな地域課題について議論を深めるとともに、情報交換や相互交流などの一体的な取り組みによって地域の発展をめざすことを目的に、平成十九年十一月に発足し、定期的に開催されています。

三回目の開催となる今回は、松崎晃治小浜市長、齋藤彰舞鶴市長、中山泰京丹後市長、中貝宗治豊岡市長のほか、敦賀市および宮津市の幹部職員が出席。有害鳥獣や大型クラゲおよび海洋漂流・漂着物についての対応策など、六市に共通する課題の解決に向けて、各市の現状・課題や取り組み状況について意見交換が行われ、「民間企業との共同による、大型クラゲを活用したクッキーの開発」や、本市の「イノシシ・シカ肉の食肉利用推進」などの事例報告も行われました。

また当地域の発展のために解決が欠かせない共通課題として、

▼高速道路網などの重要不可欠な社会基盤整備の推進や予算の確保および、その政策の決定や変更において関係自治体の住民の声を十分反映させる仕組みの整備

▼地球温暖化により懸念される日本海および沿岸地域への影響を考慮し、政府全体としての日本海の実態把握および研究に関する取り組みの継続的・積極的な実施

を国などの関係機関に求める「共同アピール」が採択されるなど、府県の枠を超え、広域的にさまざまな分野で連携を強めることが確認されました。

京丹後の特産品を出展
木津川市の産業祭で連携

京丹後市と友好都市盟約を締結している木津川市のみなさんに、本市の産品などをPRしようと、十一月七日、木津川市中央体育館周辺（木津川市木津石塚）で開催された「木の津まつり」（同実行委員会主催）に、本市の農産物や加工品などを出展しました。

本市と木津川市は、平成二十年一月、友好都市盟約を締結。学童野球や少年少女合唱団が交流するなど、行政間以外でも親交を深めています。今回の出展も同盟約に基づき、同実行委員会のみなさんのご厚意により実現。丹後産コシヒカリやジャム、酒やちりめん製の小物など、約五十点を出品しました。

昨年十一月には、本市で毎月実施されている「御旅市場復活祭」に、木津川市の特産品出展ブースが設けられるなど、両市では観光や産業面での交流を図っており、今後とも、さまざまな分野での相互交流を深めることとしています。

木津川市「木の津まつり」で京丹後特産品ブースを設置

鳥獣対策で連携
シカの広域捕獲を実施

近年、農作物に深刻な被害をもたらしているイノシシ・シカの生息数を、より効果的に管理・調整することを目的に、10月18日、久美浜町旭・蒲井地区から豊岡市田結（たい）までの山中で、府県をまたいで捕獲活動を実施する「広域捕獲」を実施しました。

◀豊岡市と京丹後市の両市域にわたって広域捕獲を実施

イノシシ・シカなどの鳥獣対策は、丹後・但馬地域共通の課題となっており、丹後地域では、丹後二市二町・京都府・農業共済組合・森林組合・丹後管内の各支部猟友会で、「丹後地域野生鳥獣広域捕獲協議会」を組織し、市町を超えた広域な範囲での捕獲を実施しています。

今回の広域捕獲は、シカが多く生息するといわれる、本市および豊岡市の両市にまたがる地域で実施。兵庫県・豊岡市・豊岡支部猟友会との連携を図り、猟友会の会員のかた八十九人によって、銃による捕獲が行われ、計六十一頭のシカを捕獲しました。

広域捕獲に参加された猟友会のかたは「銃による捕獲は、一歩間違えれば大きな事故につながる。事故が発生すれば、今後の広域捕獲の実施が危ぶまれるので、事故もなく終えることができてよかった。今後も農作物被害が減少するように協力していきたい」と話されていました。

元公立小学校長
宮本 肇童さん（網野町掛津）
瑞宝双光章を受章

宮本さんは、昭和三十一年六月に旧丹後町立上宇川小学校助教諭として教壇に立たれて以来、平成四年までの三十六年間の永きにわたり、教育現場において優れた実践を積み、大きな実績を残されました。特に、昭和六十一年からは公立小学校長として、教育に対することのほか熱い情熱と豊かな識見の上に、卓越した指導力を発揮。地域の歴史や文化を教材にすることによって社会科に対する児童の関心を高め、学ぶ意欲を引き出すなど大きな成果を上げられました。

加えて、平成七年から平成十六年三月までは旧網野町教育委員会教育長に就任。情報教育の重要性に着目し、町内の六小学校にいち早く情報機器を導入するとともに、町内の二中学校には、情報教育の拠点となる機能を持った情報教室を整備し、情報教育環境の整備に大きく貢献するなど、これらの功績が高く評価され受章されました。

宮本 肇童さん

保護司会会長
小栗 徳宗さん（峰山町菅）
藍綬褒章を受章

小栗さんは、昭和五十八年十一月から現在までの二十七年の永きにわたり、保護司として活動され、大きな功績を残されています。

昭和五十九年四月から昭和六十年三月までは丹後地区保護司会理事を、平成十五年四月から平成十九年四月までは京丹後市保護司会副会長を、さらに同月から現在までは、京丹後市保護司会会長および京都府保護司会連合会理事など要職を歴任されています。

小栗さんは、保護観察官との協力により、持ち前の柔軟性と地域の実情に精通している特性を活かし、更生保護活動に尽力。保護観察中のかたの立ち直りに必要な指導や助言をし、社会復帰後に円滑な社会生活を営むことができるように環境調整に努めるとともに、地域の犯罪や非行の予防に関する相談に応じるなど、その卓越した識見で保護更生行政の推進に手腕を発揮されるなど、その功績が高く評価され受章されました。

小栗 徳宗さん

元京都府中学校長会長
長尾 國顯さん（久美浜町布袋野）
京都府教育功労者表彰を受章

長尾さんは、昭和四十五年四月の峰山中学校赴任を皮切りに、平成十七年三月までの三十五年の長きにわたり、専門である体操競技の普及発展をはじめ、クラブ活動の活性化などにおいて優れた手腕を発揮し、大きく貢献されました。

平成五年、宇川中学校長に昇格するや、その後八年間にわたり丹後地方中学校体育連盟会長として、京都府下中学校体育連盟の発展に尽力されました。その後、宇川中学校から大宮中学校、峰山中学校でも卓越した指導力を発揮されるとともに、丹後地方中学校長会の会長や、京都府下中学校長会の副会長、会長を歴任。学校経営は体育・スポーツの活性化によるという信念の下、活気ある学校運営にあたってこられました。

このように丹後地方はもとより京都府下の中学校教育、特に体育振興に果たした功績が、高く評価され受賞されました。

長尾 國顯さん

全国納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞
市立橘中学校３年生 吉岡 志栞さん
税についての作文

税に関して身近に感じたこと、学校で学んだことなどを題材にした作文を全国から募集する「税についての作文」（主催・全国納税貯蓄組合、国税庁）で、市立橘中学校三年の吉岡志栞さんの作品が、全国納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞しました。

「税についての作文」は、将来を担う中学生のみなさんに税についての関心や正しい理解を深めてもらおうと、全国の中学生を対象に昭和四十二年から毎年実施。今年は、全国七千二百十三校から五十四万八百八十九編の作文が寄せられ、吉岡さんの作文が京都府で唯一、同賞の受賞となりました。

十一月十日、峰山町内で開かれた表彰式で、受賞作文を披露（吉岡志栞さん）

『税』を知ること
市立橘中学校 三年生 吉岡 志栞さん

「税」と聞いて私は、あまり良いイメージを持ったことがありませんでした。私の一番身近にある消費税だってそうです。「物を買う度に税を払わなくてはいけない」という意識から、良い印象が浮かばなかったのです。しかし、今考えてみると私は「払う」という一方的な見方しかしておらず、その「税」によって自分自身が支えられていることに気付いていませんでした。

私は小さいころから「ぜんそく」という病気を持っています。そしてそのぜんそくがひどくない時であっても、月一回のペースで、薬をもらうため病院に通っています。私は、その薬代や診察料も税金でまかなわれていることを知りませんでした。もしも税金がなかったら、薬をもらうのにもたくさんのお金がかかり、とても大きな負担になってるはずです。まして、毎月通っている私は、税金が無かったら…と考えると、どれだけ税金という存在が大きいものであるか、実感しました。

また、税金が使われているのは医療関係だけでなく、私が通っている学校にも使われています。私は今まで「税金で学校に通っている」なんて考えたことも思ったこともありませんでした。しかし、授業料や教科書、校舎そのものが税金によって支えられ、私たちに学校という居場所まで与えてくれています。

歴史の授業で習った昔の「税」は、とても重く、人々に苦役と不満をもたらすばかりでした。さらにその税が、苦労して納めた人のために使われることはほとんど無かったといっても過言ではありません。でも、今の社会の税金は違います。自分が納めた税金が、様々な形で自分自身や周りにいる人を救っているのです。

私は子どもなので、自分で税金を納めるということはできません。だから今は、自分の両親を含めて多くの納税者の方々が納めてくださった税金によって支えられています。しかし自分が大人になったときは、今まで支えてくれた恩を返すつもりで、また私たちが今そうであるように、未来を担う子どもたちのため、しっかり税を納めようと思っています。

消費税やたばこ税など、税金の引き上げが騒がれている今、私たちは税金の大切さを再認識するべきではないでしょうか。税を納めて損している、などということは決してないはずです。また、私が様々な税金の使われかたを知らなかったように、自分が納めた税金がどのように使われているか知らない、という人も多いのではないでしょうか。税金が何に使われているのかを知らなければ、自分が損した気分になっても無理はありません。

税について詳しく知ることこそが、気持ちよく税を納められる第一歩なのだと思います。みんなが税について理解し、たくさんの人が国民の義務としてすすんで税を納められる社会の実現を目指し、協力していきたいです。

安心・安全なまちづくり

災害時応援協定団体なども参加
市初の 市民協働による 現地対応型大規模訓練
京丹後市総合防災訓練

災害時における被害の軽減と、市民のみなさんの防災意識を高めていただこうと、十一月八日、大規模地震を想定した総合防災訓練を実施し、市内各地で避難訓練が行われました。また今回の訓練は、市と災害時応援協定を締結している民間の団体も参加し、市の訓練としては初めてとなる「現地対応型訓練」を実施。それぞれの役割を相互に確認しました。

被災車両からの救出・救助訓練（鳥取小学校グラウンド）

訓練は、「午前七時、丹後半島北西沖合の海域から大宮町口大野付近に至る郷村断層を震源に大規模地震が発生。市内で震度六強を観測し、各地域で家屋の倒壊や火災が発生し、死傷者も出ている」との想定で、防災行政無線による一斉放送ではじまりました。

各区や自主防災組織では、それぞれの組織がさまざまなメニューを自主的に計画され訓練を実施。高齢のかたや障害のあるかたなど、災害時に支援が必要とされる要援護者のかたの安否確認や避難誘導訓練、避難経路確認や危険箇所の調査、地区内に設置されている防災行政無線の操作訓練など、地域に密着したさまざまな訓練に取り組まれました。

関係機関の役割を確認 現地対応型訓練

午前九時からは、市と災害時応援協定を締結している三十六の民間団体や消防団、消防本部、自衛隊、警察といった防災機関および、弥栄町木橋区、和田野区、鳥取区のみなさんなど、合計約三百五十人が鳥取小学校グラウンド（弥栄町木橋）に一堂に会し「現地対応型訓練」を実施。倒壊家屋や被災車両からの救出・救助訓練や応急救護所の設置訓練、電気設備や道路などのライフライン復旧訓練などを実施し、災害時における相互の役割分担を確認しました。

鳥取小学校での訓練に参加された木橋区の吉奥弘区長は「木橋区ではご家族の了承のもと、要援護者のかたの情報を地図上に整理するなど、地域が連携して要援護者のかたの支援について取り組みを進めている。今後も安否確認や避難誘導などの支援体制づくりに、区としてさらに取り組みたい」と話されました。

災害ボランティアセンターの設置・運営訓練も実施

広がっています 自主防災組織

大災害から自らの命と家族、そして地域を守るためには、自助・共助・公助の連携が欠かせません。中でも、災害発生の初期段階においては、地域の事情をよく知る地元のみなさんで構成される「自主防災組織」が非常に大きな役割を果たします。

現在、市内には85の自主防災組織が、区を中心に組織されており、徐々に広がりを見せています。組織の設立や運営にあたり補助金などの制度もありますので、自主防災組織の設立をお考えの地域につきましては、下記へお気軽にお問い合わせください。

自主防災組織に
関するお問い合わせ先
総務課（☎69-0140）

地域防犯の拠点づくり
弥栄町 ふるさと安全安心ステーション 発足

地域における防犯力を向上させるために、地域内で防犯活動を実施される各種団体が一堂に会し、情報交換・情報共有・ネットワーク化を行うための拠点として、この度、弥栄地域に「弥栄町ふるさと安全安心ステーション」が設置され、十月十八日、弥栄地域公民館で発足式が催されました。

同ステーションは、京都府と京都府警察本部が共同で進める防犯に関する拠点づくり事業の一つとして設置されたもので、京丹後警察署管内、そして京都府下のモデル地域として今後活動が始まります。

弥栄町ふるさと安全安心ステーションの看板を除幕（弥栄地域公民館前）

これまでから、地域の防犯活動に関しては、市民のかたによる自発的な活動団体のほか、警察や学校に関連する多種多様な組織が、それぞれ活動されていますが、組織間の横のつながりはあまりありませんでした。同ステーションはこうした課題を解決するため、防犯に関する各種団体の連携を深め、団体間の情報交換・情報共有・ネットワーク化を図るための拠点として位置づけられるものです。

構成団体は、弥栄町内の各小・中学校区の防犯ボランティア（見守り隊など）とPTA、弥栄町区長連絡協議会、防犯推進委員協議会、社会福祉協議会で、今後も順次各種団体への参加の呼びかけが行われます。

発足式では、弥栄町区長連絡協議会の今度弘会長が「私たちの暮らす弥栄町の一層の安全・安心を目指して、地域のみなさんと力を合わせてこのステーションを拠点に地域の防犯活動に取り組んでいきます」と防犯宣言をされた後、弥栄地域公民館前においてステーションの看板除幕式も行われました。

青色防犯 パトロールカー 市内で36台に
市社会福祉協議会の 取り組み始まる

「青色回転灯」を装着した車両による防犯パトロールにより、地域の防犯活動を活発にし、犯罪のない安全で安心なまちづくりを進めるための取り組みが市内ですすめられています。このほど社会福祉法人京丹後市社会福祉協議会に青色防犯パトロールカーが六台登録され、平成十九年からパトロールを実施している社会福祉法人北丹後福祉会の十二台と市役所の公用車十八台をあわせて、市内の青色防犯パトロールカーは合計三十六台となりました。

同協議会では、市民を犯罪の被害から守り、市民生活と地域の安全確保を図るための活動の一翼を担うため、六町の各支部の車両に一台ずつ青色回転灯を装着。十月十三日、防犯パトロールの実施者証の交付を京丹後警察署長から受け、活動が始められました。

京丹後警察署のパトカーとともに合同パトロールを実施

実施者証の交付を受けた同協議会の梅田耕之助会長は「この防犯パトロールの実施により、地域から犯罪をなくすとともに、住民相互の助け合いの意識の高揚につなげたい」と力強くあいさつされました。

また、実施者証の交付に合わせて、「全国地域安全運動」（十月十一日から二十日まで）の期間中でもあることから、「地域防犯の灯り・京丹後ブルー&レッド防犯パトロール作戦」のスタート式を弥栄地域公民館で開催。京丹後警察署のパトカーと社会福祉協議会、北丹後福祉会、市役所の青色防犯パトロールカーによる合同パトロールとして、地域防犯の重要性を訴えながら、各地域を巡回しました。

地域ぐるみの防犯活動

戸締まりなどを呼びかける

網野町内で侵入盗被害が多発していることを受け、11月6日、戸締まりなどの防犯意識の高揚を呼びかける「街頭啓発活動」が、網野町網野・浅茂川地域を中心に、京丹後警察署、防犯推進委員、地元区長さんおよび市の連携により実施されました。

スーパー前で啓発チラシを配布

チラシを手渡しで配布

市内では十月下旬から網野町内を中心に、民家に侵入して金品などを窃取する「侵入盗」被害が多発しています。街頭啓発活動は、地域のみなさんに戸締まりなどの防犯意識を高めていただき、これらの被害を未然に防止しようと実施。防犯推進委員のかたや地元区長さん、京丹後警察署など、計約三十人が「就寝や外出の際には必ず鍵をかけてください」などと呼びかけながら、約二千枚の啓発チラシを街頭や被害発生地域の家庭へ配布し、注意を呼びかけました。

活動に参加された後藤修浅茂川連合区長は「地域のみなさんに、より用心してくれるようになっていただきたい」と話されていました。

また京丹後警察署からは、「侵入防止に大切なことは、戸締まりと部屋の中を真っ暗にしないこと。豆球だけでもつけておくことが有効です。また外出する場合には、近所のかたに留守にする旨を伝えておくことなどの近所での声掛けが、不審者を寄せつけないためには大切です」と被害防止のポイントを話されました。

防災意識を高めましょう

小学生が防災啓発ポスターで呼びかけ

京丹後建設業協会（上田俊六会長）が市内の小学生を対象に募集した防災啓発ポスターの入選作品表彰式が、十一月六日、弥栄地域公民館（弥栄町溝谷）で開かれました。

この取り組みは、平成十六年の台風二十三号の被害を教訓に、防災に関する絵を描くことで家庭や地域の中で防災意識を高めてもらおうと、平成十八年から実施。市内の小学生を対象に、町ごとに巡回して絵を募集しています。四回目となる今年は、丹後町・弥栄町内の小学校五・六年生を対象とし、百八十三点の作品が寄せられました。

京都府丹後広域振興局長賞
細見圭弥くん

京丹後建設業協会

入選されたみなさん

（敬称略）

京都府丹後広域振興局長賞	細見　圭弥	吉野小学校５年生
京丹後市長賞	辻村花央里	吉野小学校５年生
丹後労働基準監督署長賞	太田　雄士	溝谷小学校５年生
京都府丹後土木事務所長賞	中江　大樹	間人小学校５年生
京丹後市教育委員会教育長賞	瀬戸　花音	野間小学校６年生
京丹後市消防長賞	小倉　克介	黒部小学校６年生
京丹後建設業協会長賞	上田　澪	溝谷小学校６年生
入　選	大下倉博史	鳥取小学校６年生
入　選	小谷文美子	宇川小学校６年生
入　選	永島　直	豊栄小学校５年生
入　選	中村寿希也	間人小学校６年生

消しわすれにご注意

京丹後市火災予防ポスター

「秋の全国火災予防運動」（十一月九日～十五日）の一環として、防火意識の高揚を図るため、市消防本部が市内の小学校四年生を対象に募集していた「火災予防ポスター」で、大宮第一小学校四年生の安田智香さんが特選に輝きました。

同取り組みは、ポスターの製作を通じて学校や家庭で火災予防の意識を高めてもらおうと、平成七年から毎年実施。十五回目となる今年は、市内の二十八の小学校から六百六点の作品が寄せられました。

安田さんは作品で、料理器具の火の消し忘れにより引き起こされた火災を表現。「消しわすれにご注意！」のメッセージを力強く添え、注意を呼びかけています。安田さんは「消し忘れが原因で、悲しい思いをする人がいなくなってほしい」と作品に込めた願いを話してくれました。

市消防本部では、B2版のポスターを八百枚作成し、市市内の学校や事業所などに配布し、広く火災予防を呼びかけていきます。

■入賞されたみなさん

〔敬称略・（　）内は小学校名〕

特選	安田　智香	（大宮第一）
入選	中田 亜美音	（五　箇）
	山下　千佳	（網野南）
	畑中　丈虎	（神　野）
佳作	中西　龍次	（吉　原）
	松見　智弘	（網野北）
	高橋 明日香	（大宮第一）
	蒲田　貴澄	（大宮第三）
	糸井　瑠理	（峰　山）
	亀井　蒼	（大宮第一）

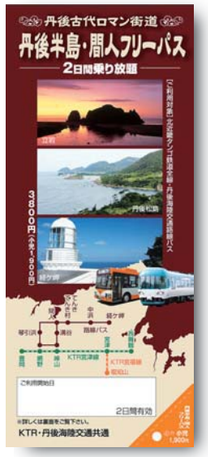
【特選】大宮第一小学校4年生
安田智香さん

観光におすすめ

鉄道＋バス＋特典付き

～2日間乗り放題～

丹後半島・間人フリーパス 誕生



北近畿タンゴ鉄道と丹後海陸交通の共同企画乗車券の「丹後半島・間人フリーパス」が誕生しました。本フリーパス1枚で、連続した2日間、列車とバスが乗り放題。さらにこの乗車券を市内22の協賛店（アミティ丹後、琴引浜鳴き砂文化館、宇川温泉よし野の里など）でご呈示いただくことで、代金の割り引きやプレゼントの特典などが受けられるなど、丹後の魅力が凝縮されたこれまでにないチケットです。

▶値　段　大　人　**3,800円**　子ども　**1,900円**

▶利用区間

鉄道…北近畿タンゴ鉄道（KTR）全線の普通・快速
・特急列車の普通車自由席
バス…市内の上限200円バス
（路線バスの海岸線・間人線・間人循環線のみ）

▶特　典

フリーパスの呈示で、市内の22の協賛店によるさまざまな特典が受けられます。
協賛店や特典内容の詳細は、北近畿タンゴ鉄道株式会社のホームページ（http://ktr-tetsudo.jp）をご覧ください。

▶販 売 所

峰山駅、網野駅、木津温泉駅、天橋立駅
豊岡駅、福知山駅、西舞鶴駅、宮津駅
丹海バスの峰山案内所、間人案内所

▶お問い合わせ先

北近畿タンゴ鉄道㈱ 企画総務課
（☎0773-24-2510）
丹後海陸交通㈱ 営業企画課
（☎0772-42-0323）

尊い御霊に追悼の誠をささげ 世界の恒久平和を願う

京丹後市戦没者追悼式

先の大戦で尊い命を失われた戦没者の英霊に追悼の誠をささげ、遺族を慰謝・激励するとともに世界の恒久平和を願う「京丹後市戦没者追悼式」を十一月十一日、京都府丹後文化会館（峰山町杉谷）で開催し、市内在住の戦没者のご遺族のかたや関係者など約五百人が参列、平和への思いを新たにしました。

式典は、京丹後市出身の三千二百有余の戦没者をしのび、参列者全員が祭壇に向けて黙とうをささげ開式しました。

追悼の辞では、遺族を代表して田中一さんが「私たち戦没者遺児も、はや七十歳になろうかという年齢となり、元気に今日を迎えられたのも、多くのかたがたの支えと、亡き父が見守っていてくれるたまものであると日々感謝しております。

我が国はいま自由と平和の恩恵を享受していますが、その影には永久に帰ることなく散華された英霊の犠牲があることに思いを致し、二度と戦争をしない、我々のような戦没者遺族を二度と出さない平和な国になることを願っています。

私たちは英霊たちの功績を顕彰し、永遠に風化させることなく、戦争体験を伝えなければと思います」と述べられました。

その後、来賓のかたや遺族会の代表のみなさんなどが白菊を献花。尊い御霊に追悼の誠をささげられるとともに、世界の恒久平和への思いを新たにしました。

戦没者の御霊に献花する遺族のみなさん

音楽を通じて国際交流
中国の伝統楽器『二胡（にこ）』演奏会
～京丹後市国際交流協会～

二胡の調べを披露 右・陳曼麗さん、左・下地富美さん（伴奏）

音楽を通じて、市民のみなさんに外国文化や国際交流への関心を高めてもらおうと、11月16日、中国の伝統的弦楽器である「二胡（にこ）」の演奏会（市国際交流協会主催・中江忠宏会長）が、二胡奏者の陳曼麗（チェン・マンリー）さんを招き、峰山総合福祉センター（峰山町杉谷）で開催され、約130人が美しい音色に耳を傾けました。

二胡は、二本の弦を弓で弾いて演奏する弦楽器の一種で、弓が二本の弦の間に挟まっているのが特徴。弓の表と裏の両面を使って演奏し、音色は女性の声に似ているとも言われる、中国の伝統的な楽器の一つです。

演奏された陳さんは、中国西安市出身で現在は綾部市在住。北近畿を中心に学校や福祉施設などで二胡の演奏や指導活動をされており、二〇〇五年の愛知万博でも演奏されています。

演奏会では、「夜来香（イェライシャン）」や「賽馬（サイマア）」といった中国の楽曲をはじめ、「上を向いて歩こう」といった日本の楽曲など、計十八曲が披露されました。また曲の合間には、二胡の演奏方法や曲の内容などを、ユーモアを交えながら中国語と軽快な日本語で紹介。来場者のみなさんは、二胡特有の美しい音色に聴き入るなど、音楽を通して国際交流を楽しみました。

会場では、本市の友好都市である中国亳州市（はくしゅうし）と本市の交流や、同協会の活動状況などを紹介する展示会も開催。来場者は写真やパネルに熱心に見入りました。

ブナ林に囲まれ観察会を楽しむ参加者のみなさん

小春日和となった十一月七日、市では、より多くのかたに本地域の貴重な自然環境を理解していただき、保全の輪を広げていくことを目的に内山ブナ林観察会（大宮町五十河）を開催しました。

平成二年から、毎年開催しているブナ林観察会は、市内で環境保全活躍に取り組む丹後スペースクラブ（平井久夫代表）のメンバーがガイドを務め、参加者二十八人は内山の歴史やブナをはじめ三百種の植生の生態系などについての説明を受けながら山頂（標高七〇二メートル）まで登り、市の天然記念物、府内最大の大ブナ（幹周り三・六五メートル）を観察し、晴れ渡る青空の下、紅葉に囲まれた深まる秋と丹後の美しい自然を満喫されました。

貴重な自然資源のブナ林

自然環境の指標とされるブナは、通常標高六百メートル以上で育つところ、内山のブナ林は、日本海側特有の冷涼な気候によって比較的低標高である四百五十メートル付近から群生している学術的にも珍しい貴重な自然林です。

温暖化や森林破壊などの地球規模での課題に直面している今、気候を安定させ、多様な生きものを育み「緑のダム」として水や食料を与えてくれる貴重な森を保全し次代につないでいくことが必要とされています。

健康・生きがいづくりを支援

丹後いきいきSKYの集い
大宮町で開催

高齢者の生きがいづくりに取り組んでいる京丹後SKY生きがいづくり推進員（矢野千枝子代表）が、11月12日、大宮町谷内公民館で「第13回丹後いきいきSKYの集い」を開催。市内外から約120人のかたが集まり、丹後の古代史の講演や岩屋寺（大宮町谷内）の寺宝を拝観しました。

会場いっぱいのかたが集いました

長寿社会づくりをすすめる

京丹後市の歴史について深く学ぶことをテーマに開催されたこの集いは、㈱京都SKYセンター（京都市中京区）の活動目的である「健やかで、快適かつ豊かな、長寿社会の実現に向け、高齢者やシニアのかたの生活と健康・生きがいづくりを支援すること」に賛同して、京丹後市内の京丹後SKY生きがい推進員のかたが企画、実施されました。矢野代表は「この取り組みが一人ひとりが輝き、明日からの生きがいづくりになりますように」とあいさつされました。

講演には、本市出身で古代史研究家の伴とし子さん（滋賀県近江八幡市）を講師に招き、「古代丹後と神話」と題した丹後地方にまつわる歴史が説明されました。また、地元食材を使用し手づくりの炊き込みご飯などを食べながら、それぞれ意見交換も実施。午後からは、市指定文化財の岩屋寺で、前住職の大同徳和師の講話や寺宝拝観なども行われ、参加されたかたは興味深く話に聞き入りました。

この集いに数回参加されている大宮町周枳の養父秀是さんは「講演や参加されたかたから話が聴けて楽しい」と話され、参加者のいきいきとした笑顔が印象的でした。

※SKYは健やか、快適、豊かの頭文字をとって「スカイ」と呼びます。

京都府のひろば

平成20年9月号から、京都府で取り組まれています市民生活にかかわる事業などについてご紹介しています。

農山村地域の再生をめざします 命の里事業

京都府では、過疎化・高齢化の進む農山村地域の再生を図るために、平成二十一年度に『共に育む「命の里」事業』を創設し、農山村地域との関わりの深い保安林を整備する「京の木の香り整備事業」と「ふるさとの森づくり事業」を創設しました。この二つの事業は、事業費の一〇〇㌫を京都府が負担する事業で、地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策の実現とともに、農山村地域の雇用創出を主目的としています。

地域の森林調査を子どもたちが見学（環境学習）

京の木の香り整備事業 ふるさとの森づくり事業

丹後広域振興局管内（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）の各市町四地区（一地区で両事業を実施）で事業を実施しています。

京の木の香り整備事業では、主に間伐材を搬出するための林道や、荒廃した渓流を安定させる木製治山ダム工などを施工しています。

ふるさとの森づくり事業では、主に森林整備や整備に伴う伐採木の搬出、森林整備をするための作業路を施工しています。

京丹後市での取り組み

京丹後市では、峰山町吉原（権現山）で事業を実施しています。事業内容は、木製治山ダム工、間伐および伐採木の搬出です。

また、本事業地においては、集落内にある峰山幼稚園から、「伐採木を活用し、園内の遊具を作製したい」との要望を受けました。そのため、地域の森の木に親しみを持ってもらい、伐採木の所有者から無償で提供いただいた材の有効利用と森林の重要性を理解してもらうため、府職員による林内調査時に、幼稚園児を対象とした現地見学会を開催し、胸高直径計測の実演や森林の働きについての環境学習を行うなど、事業実施当初から園児達との交流を深めました。

間伐材を活用した木製遊具を作製（峰山幼稚園）

その後、事業で伐採した木の一部を幼稚園まで運び、府・市の職員が、地域の林業振興会と峰山財産区の協力を得て、峰山幼稚園ＰＴＡ「おやじの会」と一緒に木製遊具を作製しました。

本事業は、元々は経済対策を主眼において創出された事業であるため、事業実施期間は限られています。

しかし、今後も本事業のような取り組みや、ほかの所管事業との連携などを通じて、地球温暖化防止に資する森林整備などとともに、農山村地域の再生・活性化を視野に入れた幅広い治山事業を展開したいと考えています。

また、丹後広域振興局森林整備担当では、森林の働きについて理解していただくため、実演機「がんばれ治山君」を使った公開講座の出前も受け付けています。小学校の授業や地域の公民館など、どこでも無料で出前していますので、お気軽にお問い合わせください。

命の里事業や公開講座について、詳しくは左記へお問い合わせください。

京丹後市 農林整備課
（☎六九―〇四三〇）
京都府丹後広域振興局 農林商工部
農林整備室 森林整備担当
（☎六二―四三二六）

事業者のみなさんを支援します 誌上 経営セミナー 第八回

講師・吉田俊也さん

「事業計画をつくろう」〈其の三 収支予想と収支計画〉

みなさんこんにちは！誌上経営セミナー担当の吉田俊也です。今日もこのコーナーでご一緒に勉強してまいりましょう！

さてみなさん、以前お伝えした「事業計画の様式」は取得されましたか？取得したよ！というかたにはよくお分かりのことと思いますが、事業計画と一口にいっても、その中身は結構多岐にわたっていますよね。「事業計画」に含まれる計画の内容を列挙すると、おおよそ次のとおりとなります。

①利益（収支）計画
②投資計画
③資金計画
④組織計画
⑤人員（採用）計画
⑥販売計画
⑦仕入（調達・物流）計画
⑧生産計画

この中でみなさんに馴染みがあるのはやはり「利益計画」でしょうか。中には「事業計画書＝収支計画書＝数字のオンパレード」というふうに理解しているかたもいらっしゃるかもしれません。が、実は利益計画というのは事業計画のほんの一部でしかなく、その他のいくつかの計画と組み合わせることによってはじめて『事業計画』になります。まずこのことを意識することが大切です。

そもそも利益計画というのは「利益の目標数値を設定し、その利益の基になる売り上げや原価、経費の目標数値を設定したもの」です。とすれば、ここには目標数値は書いてありますが、その数値をどうやって達成するのか、ということについては書いてないのが一般的です。

通常、目標となる数字だけを何度叫んだとしても、その数字をどうやって実現するのかを具体化しなければ、達成がおぼつかないばかりか、その計画の信ぴょう性も低いものとなり、資金調達さえ困難となります。つまり、その利益目標実現のために、どんな設備投資を行い、またその資金をどうやって調達し、さらには組織や人員をどのようにして、何を仕入れ、どんな技術で何を作り、どのように販売していくか…など、細かく計画することがとても大切です。これらが先ほど列挙した②～⑧の各計画となるわけです。そして、**これらの計画と利益計画の両方が存在することで、「明確な目標」と「その目標を達成するための具体的な行動計画」がそろうのです。**こうやって初めて事業計画は車の両輪がそろった状態になると言っていいでしょう。

ちなみに、「利益計画」と「収支計画」は、似ていますが同じものではありません。つまり、「利益計画」というのはあくまでも「利益」に着眼して作られるのに対し、「収支計画」は「収支」にスポットが当たるわけです。もう少し具体的に言いますと、例えば原価百円の商品を現金払で仕入れ、その商品を百五十円で掛け売りしたその瞬間には、「利益＝プラス五十円」となりますが、「収支＝マイナス百円」となります。このように、利益というのは「モノやサービスの流れ」（帳簿上の損益計算）に注目したもので、収支は「お金の流れ」（キャッシュフロー）に注目したものになります。どちらも経営にとってはとても大切なものですので、両方を計画化することが最善です。

もう一点、計画を作るときに留意していただきたいことがあります。それは「計画」と「予想」を区別する、ということです。

例えば収支を考える場合に、「このままいけば来期はきっと百万円くらいの黒字になるだろうな」というのはあくまでも収支の「予想」です。なぜならそれは単なる「成り行きの想定」でしかないからです。**「計画」というのは先ほども述べたとおり、「目標」を設定することに等しいものです。**そのためには必ず「このままいけば百万円の黒字になるだろう。でも○○と△△をやって黒字を三百万円にしよう！」というような意思決定が必要になります。「収支計画」とは、明確な意思をもって将来設計を十分考察した上で作成するものですので、単なる「収支予想」をして「収支計画」を立てた気にならないように、くれぐれもご注意くださいね。

光インターネットやケーブルテレビの利用始まる

京丹後市ブロードバンドネットワーク

■お問い合わせ先
情報政策課
（☎69-0130）

十二月から「京丹後市ブロードバンドネットワーク」の各サービスに加入されたお宅での接続が始まり、光インターネットやケーブルテレビを順次、ご利用いただけるようになります。

昨年十一月から始まった「京丹後市ブロードバンドネットワークサービス」の事前申し込みは、すでに一万二千六百件を超え、日々増えつづけています。

一方、工事はいよいよ光ケーブルの引き込み工程に入り、順次光インターネットやケーブルテレビをお使いいただけるようになります。同サービスにご加入いただいたみなさんに、できるだけ早期にご利用いただけるよう全力で工事を進めていますが、毎月約三千件程度の割合で工事が進む見込みですので、ご了解ください。

光インターネットは、西日本電信電話㈱が運営を行い、「フレッツ 光ネクスト」が利用できます。このサービスは、今までの光インターネットの特徴をそのままに、高品質で安定性が高く、セキュリティを兼ね備えた最新のサービスで、近畿北部では初めて提供されるものです。これにより、京丹後市全域が念願の光インターネットのサービス地域になります。

また、ケーブルテレビは、㈱全関西ケーブルテレビジョンが運営し、地上デジタル放送や衛星放送に加えて、京丹後市内のイベントやお祭り、市役所からのお知らせや議会中継など、地域の話題がいっぱいの自主放送番組もご覧いただくことができます。自主放送番組は、多くの地元のみなさんにご出演いただくとともに、市内の有志のみなさんの協力を得ながら制作し、市内各域で開催される秋祭りの紹介や、近くて遠い市内の観光関連施設の紹介、また身近な人が講師として登場し医療・健康情報をお届けする番組などを予定しています。

市内各地で、自主放送番組の取材が行われています

※事前申し込みは引き続き行っています。申込書は各市民局窓口に置いてあります。また市のホームページからも、お申し込みいただけます。

2011年7月24日までにアナログ放送が終了します。
デジタル放送を見るには
デジタル受信機器を用意しましょう

悪質商法にご注意ください

テレビの調査会社やアンテナ工事業者を装って、地上デジタル放送を受信するための費用を不正に請求する、工事の勧誘を行うなど、悪質商法による被害がおきています。

地上デジタル放送に関する誤った情報や不十分な情報にもとづいて関連商品・サービスを売りつける悪質商法にご注意ください。

怪しいと思ったときの対処法

- 頼んでいない要件や知らない要件・一方的な要件は、はっきり断りましょう
- どんな要求をされても、自分の判断でお金は払わない
- 絶対に部屋に上がらせない
- 「不審者」と思ったら、110番

ブロードバンドネットワーク事業
光ケーブル引き込み工事

概要をお知らせします

現在、市が実施しています「ブロードバンドネットワーク事業」にお申し込みいただきましたかたにつきましては、次のとおり光ケーブルの引き込み工事などを実施します。
※引き込み工事は、工事を効率的に進めるため、通信・放送用機器が設置されている各NTT局舎近くのエリアから着手し、周辺へ広げていきますので、ご理解をお願いします。

京丹後市発注工事

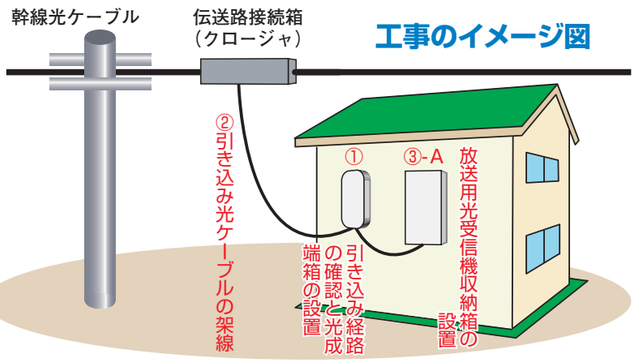
① 光ケーブル引き込み経路の確認と光成端箱の設置

近くの光ケーブル幹線から光ケーブルを引き込む際の経路を確認し、光成端箱と呼ばれる箱を建物の外壁に取り付けます。
〈9月から順次、調査員が訪問しています〉

② 引き込み光ケーブルの架線

近くの光ケーブル幹線から光成端箱へケーブルを架け渡します。
〈11月中旬から着手しています〉

工事のイメージ図



これらの工事の完了後、サービスごと（ケーブルテレビ・光インターネット）に改めて次の工事に伺います。

京丹後市発注工事

③-A ケーブルテレビに関する工事

- 光受信機と収納箱を外壁に設置
- テレビ配線の切り替え（屋外）
- 光受信機への電源供給器具の取り付け（屋内）

チャンネル設定後、利用開始

NTT西日本の直接工事

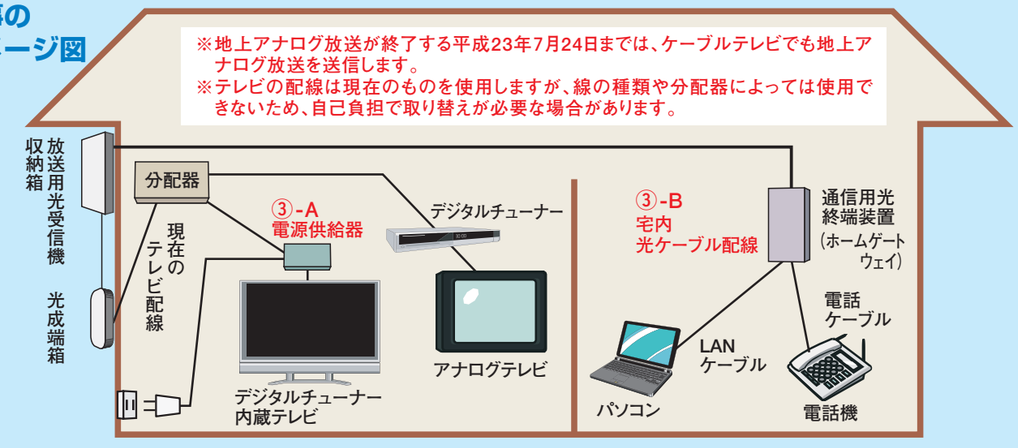
③-B 光インターネットに関する工事

- 宅内光ケーブルの配線
- 通信用光終端装置（ホームゲートウェイ）の設置
- ひかり電話工事（ひかり電話をご契約の場合）

パソコン設定後、利用開始

工事のイメージ図

※地上アナログ放送が終了する平成23年7月24日までは、ケーブルテレビでも地上アナログ放送を送信します。
※テレビの配線は現在のものを使用しますが、線の種類や分配器によっては使用できないため、自己負担で取り替えが必要な場合があります。



サービスは工事完了後、順次ご利用いただけます

詳しくは、情報政策課（☎69-0130）へお問い合わせください。

安心・安全な冬を過ごすため 除雪へのご協力をお願いします

～除雪期間（12月1日～3月15日）は 積雪10cm以上で出動します～

今年も冬の季節がやってきました。市では、本年度の「除雪計画」を策定し、市内の業者のかたや地区へ委託して除雪を行います。除雪期間は十二月一日～三月十五日の三か月半で、積雪量が一〇㌢以上の場合、原則午前五時から出動します。

今年度の京丹後市の除雪作業は、七十三業者のかたおよび六十地区へ委託して実施します。除雪延長は、京都府から委託された路線を含め二千三百三十三路線、総延長六八一㌔で、今年も道路の新設や府から移管された道路が加わり、増加していますが、依然として経済不況が続く中、委託業者のかたや借上機械の減少、また運転員のかたの不足なども重なり、今年度もたいへん厳しい状況下での除雪作業となります。

また、市では市民のみなさんと協働して除雪を実施するため、除雪機械を地区に貸し出し、委託業者に代わって除雪を実施していただいています。

このように、除雪につきましては、委託業者のかた、地元のかた、市が一体となって実施しています。

市民のみなさんにお願いしたいこと

委託業者のかたや地区のかたには、寒い中、早朝から除雪作業を行っていただきますが、雪の状況によっては作業の遅れなど、市民のみなさんにご迷惑をおかけする場合があるかと思いますのでご理解をお願いします。

また、除雪作業を安全かつ迅速に行えるよう、次のことにご注意いただくとともに、みなさんのご協力をお願いします。

「ひとかき、ふたかき運動」にご協力ください

除雪作業での雪の取りこぼし、除雪車通過後の道路脇に寄せられた雪などで、市民のみなさんにご迷惑をおかけすることがありますが、スコップやスノーダンプなどで、**ひとかき、ふたかき除雪**への協力をお願いします。

▼道路上には自動車などを駐車しないでください

除雪作業中に車を傷つけたり、脱輪横転などの大事故につながります。また、その区間は除雪ができませんのでみなさんの迷惑にもなります。やむを得ず駐車しなければならない場合には、その位置がわかるよう、赤い標識などを立ててください。

▼屋根の雪を道路上におろしたときは各自で排雪してください

路上に雪をばらまいた場合、凍結などによって歩行者の転倒、自動車のスリップなどの事故につながり、たいへん危険です。

▼積雪が多くなると路上以外に雪を押し出すことになります

庭木や農作物、塀などを破損する恐れがありますので、雪の下に何かあることがわかるよう、竹竿に赤い旗をつけるなど、目印をしてください。また、イノシシなど、獣害対策として設置されている電気柵やフェンスなども、除雪の際、破損する可能性がありますので除雪期間までに片づけてください。

除雪作業で玄関前など雪の取り残しができ、ご迷惑をおかけすることがありますが、ご理解をお願いします。また、**除雪車の後について歩くのはたいへん危険ですから絶対におやめください。**

▼消雪パイプで散水中は自動車は最徐行してください

降雪時に路面に散水することにより積雪量を抑制させる消雪装置が峰山町、網野町、久美浜町の国・府道の一部に設置してあります。車での走行の際には、しぶきが飛び、歩行者や付近の民家への迷惑となりますので、思いやりのある運転を心がけてください。

▼除雪車の通行を妨げるたけや木などは

所有者のかたが、速やかに取り除いてください。

▼歩道や路肩の除雪にご協力ください

歩道や路肩は大型除雪車での除雪は困難ですので、各家庭での除雪にご協力をお願いします。

▼排雪のために溝ぶたなどを開けたときは

必ず元に戻してください。

▼積雪時の自動車の運転はスピードを控えてください

通学の児童生徒へは、特に注意して運転していただきますようお願いします。

▼除雪についてのご相談は
建設部管理課（☎六九―〇五一〇）へご連絡ください。

▼消雪装置についてのご相談は
国・府道路管理者である京都府丹後土木事務所管理室（☎〇七七二―二二―三二四五）へお問い合わせください。

京丹後市

人権啓発映画会

お互いを認め合うことや思いやりの気持ちの大切さなど、人権の尊重について考えていただく「人権啓発映画会」を開催します。

日時 12月19日（土） 開場／16：00 上映／17：00

場所 アグリセンター大宮 多目的ホール
大宮町口大野228-1（大宮庁舎横）

▶上映作品 ブタがいた教室
監督：前田　哲
主演：妻夫木 聡・大杉　蓮

▶協　　力 京丹後市人権啓発推進協議会

▶お問い合わせ先 市民課（☎69-0210）

先着順230人まで入場できます。（入場無料）

※入場者が230人を超えた場合、入場をお断りすることがありますが、ご理解をお願いします。
※駐車場は、大宮庁舎および大宮中学校をご利用ください。

ブタがいた教室

妻夫木 聡×26人の子どもたち

新任教師と二十六人の子どもたちが、食べるために飼ったブタへの愛情に戸惑いながら、「いのち」や「食」と向き合う。**白紙の台本から放たれる「言葉」と「感情」にだれもが心を揺さぶられる実話の映画化です。**子どもたちと、一緒に悩みながら成長する新任教師・星先生を演じたのは、今回教師役に初挑戦の若手実力派俳優の妻夫木聡さんです。

あなたの声を市政に ご意見箱

紙面の都合によりご意見などを一部割愛させていただいています。

Q 弥栄町区民運動会について

弥栄町で学区ごとに行われている運動会ですが、他の学区はわかりませんが、私の居住している学区は参加する人も少なく、フルで出場しなければいけません。小・中学校は学校行事になるため、その保護者が中心になって出ています。保護者以外の区民はあまり参加されません。なぜでしょうか。運動会に魅力がないからではないのでしょうか。土・日が仕事の人も多いです。お子さんが在学中は私も含めて義務で行っているかたが多いのではないでしょうか。お子さんが中学校を卒業されたら参加されないかたが多いのは、やはり仕方なく参加されていたからではないかと思います。正直、雨で中止になると喜ぶかたの方が多いです。京丹後市になった時点で、やめてほしかった行事です。

【市内・女性】

A 区民運動会は、親睦と交流を深められる有意義な公民館活動です

区民運動会は、地区の自主的な取り組みとして行われています。地区の行事として「人口が少なくなり各種の行事も元気がなくなっていく。だからできるだけ多くのかたの参加を得て元気を出したい」との趣旨で計画されていると思います。

弥栄地域におきましても、毎年、小学校区ごと（五校区）に区民運動会が開催されてきました。以前は、弥栄町区長連絡協議会の主催でしたが、今年度からは各地区公民館（五地区公民館）が主催者となり開催されたとお聞きしています。

区民運動会は年に一度、校区内の老若男女が一堂に集い、親睦と交流を深める好機でもあり、たいへん有意義な公民館活動の一つです。今後より多くの地域のかたの参加が得られるよう地区公民館と連携し、ご指摘も真摯（しんし）に受け止め、地域住民のみなさんのご要望も把握しながら内容の充実を図りたいと考えています。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【社会教育課】

Q 市民の各種相談窓口について

各種の相談窓口が平日しか行われていないことに関してたいへん困っています。例えば、市営住宅に関することやネットやケーブルテレビに関することなどです。

【市内・無記名】

A 現状では、直ちに相談窓口の開設は難しいと考えています

ご意見にありますように、各種の相談窓口につきましては、平日の日中のみの開設となっており、ご不便をお掛けしていることに対しお侘び申し上げます。

誠に申し訳ありませんが、現状では職員の人員体制などの関係で、直ちに夜間や休日の相談窓口の開設は難しいと考えていますが、市民のみなさんのご要望を今後ともお聞きしながら、どのような工夫ができるか研究していきたいと思います。

お仕事の関係で窓口相談の時間内にお越しいただけない場合は、昼食時などの休憩時間に電話をいただくか、パソコンや携帯電話を使用されているかたは電子メールなどでご連絡いただくことで、ご相談をいただければと存じます。

なお、戸籍謄本や住民票、印鑑証明書などの交付につきましては、峰山市民局において毎週木曜日に午後七時まで窓口を延長しています。（祝日、十二月二十九日～一月三日を除きます）

【企画政策課】

Q 商工業の活性化を図るチャレンジユース推進事業について

広報きょうたんご十月号の三ページに掲載されている「商工業の活性化を図るチャレンジユース推進事業実施」ですが、対象事業者が京丹後市商工会会員のみとなっていることが理解できません。

同じように税金を払い、同じように京丹後市で事業をしているにも関わらず、京丹後市が実施する助成金を、商工会に加入していない一般の事業者が利用できないと言うのは不公平だと思います。

不公平と感じますので、広報への掲載も配慮がほしいです。

【無記名・男性】

A 広報紙で詳細な情報が伝えきれず、申し訳ありません

国での道路特定財源の一般財源化に際し、地方道路整備臨時交付金に代わるものとして、道路を中心とした取り組みを支援する、地域活力基盤創造交付金が新たに創設されました。市ではこれを財源として、京都縦貫自動車道通行料への助成をすることによる、市内商工業の活性化と同自動車道の利用促進を図る「社会実験」を、商工会に委託して行っています。

この事業は、あくまで社会実験という位置づけであり、市内全事業者を対象とはしておりません。国の予算を財源の柱としたものであり、国・府と事前協議を重ねる中で、市内の商工業の事業所数約五千八百の内、約二千八百事業所が商工会に加盟されていることから、この事業により市内商工業者のおよそ半数を対象とした、有効な調査ができると判断したものです。

会員事情に精通した商工会に、連携・協力いただきながら社会実験を実施することとし、産業関連団体などをメンバーとした「京都縦貫自動車道チャレンジユース推進協議会」で意見交換を行い、効果が確認できれば、今後の助成事業の在り方について検討していきたいと考えています。

京丹後市の魅力あふれる産業資源の強みを生かし、弱みを克服するためには、道路交通網の有効活用が必要不可欠です。京都縦貫自動車道を利用した、広域交流への積極的なチャレンジに繋げる、社会実験としてのこの助成制度に、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、広報紙で掲載しましたご指摘の記事の内容につきまして、市民のみなさんへ詳細な情報が伝えきれず、たいへん申し訳ございませんでした。

常に市民のみなさんに親しんでいただけるような広報紙づくりに取り組んでまいりますので、広報紙に対するご意見、ご感想などもお寄せください。

（秘書広報広聴課　☎六九―〇一一〇）

【商工振興課】【秘書広報広聴課】

Q 国府道に隣接する樹木などについて

道路に隣接する山林から、樹木などの幹、枝、葉が伸びていて交通の妨げになっています。

夏季に除草作業はされているようですが、せいぜい一メートル程度の高さまでしか刈り取られることなく、それより高い場所に生えているものについては、放置されています。

これから、降雪により低い位置まで下がり、さらに交通に支障をきたすことになると思います。

道路上に出ているこれらの樹木などは、道路管理者が整理できないものなのでしょうか。

【無記名】

A 年一回の除草と、定期的な点検、調査が行われています

ご指摘のあった国府道の道路管理者は京都府丹後土木事務所であり、市より府へ確認しましたところ次のような回答でありました。

『京都府丹後土木事務所』

「貴重なご意見を賜り、ありがとうございます。京都府の管理道路については、府民のみなさんに快適に利用していただけるよう、適切な維持管理に努めているところでございます。ご要望の除草および樹木の伐採につきましては、年一回の定期的な除草を行うとともに、車両などの通行に支障のある箇所について、日常の点検、調査に基づき、除草、樹木の除去を行っております。今後とも道路などの適切な維持管理を行っていきたいと考えておりますので、府民のみなさんのご理解、ご協力をよろしくお願いします」

【建設部　管理課】

路肩の草刈り風景

「ご意見箱」投稿に際してのおねがい

ご意見箱へお寄せいただくご意見には、お名前などの個人が特定できる部分やプライバシーに関わる部分を除き、すべてお答えすることとし、お名前や連絡先をご記入いただいているかたにつきましては、直接お答えもさせていただいています。一方、お名前や住所などの連絡先の記入のないものにつきましては、市のホームページおよび広報紙でお答えすることとしています。

ホームページには、個人情報に関するものを除き、随時掲載していますが、広報紙は月に１回の発行であり、どうしてもお答えを掲載するのに時間がかかってしまいます。また、広報紙では紙面が限られているためご意見やお答えを一部割愛して掲載することとなります。

これまで、お名前や連絡先などが記されていたご意見では、ご意見の内容を確認させていただき、できる限り正確でていねいな回答をお返しするように努めています。お名前や連絡先などが記されていないご意見につきましては、再質問的に何度もいただいているご意見もあります。正確な回答をできるだけ速やかにお返しするために、住所をはじめ、お名前・連絡先などをぜひご記入ください。

市立図書館　ご案内

市立図書館のご紹介
弥栄図書室

弥栄図書室は、弥栄地域公民館の1階にあります。弥栄市民局、弥栄病院が近くにありとても来館しやすい場所にあります。

毎月第3木曜日は、乳幼児対象のおはなし会、第3土曜日は、ボランティアのみなさんによる幼児～小学生対象の読み聞かせ会、年2回（春・秋）のお楽しみ会を開催しています。より多くの市民のみなさんに気軽に利用していただける図書室をめざしてサービスに努めています。

絵本作家 田島征彦さんによる講演会を開催　峰山図書館

「峰山読み聞かせ推進活動実行委員会（事務局峰山図書館）」の主催で、10月18日、絵本作家の田島征彦さんの講演会が開催されました。

落語絵本や体験をもとにした作品が誕生するまでの秘話などの心に染みるお話と、『じごくのそうべえ』など自作絵本の原画スライドを使った読み語りで、約100人の参加者は「田島ワールド」に浸り、楽しい時間を過ごしました。参加者からは「心に残る感動的な講演会だった」などの感想が多く寄せられました。

大宮図書室 「くつろぎのコーナー」を整備

大宮図書室の絵本のコーナーが広くなり、イメージを一新して、よりくつろいでただける雰囲気になりました。

大宮町善王寺のご出身でニチコン株式会社の創業者である故平井嘉一郎さんのご遺志による多額のご寄付により、未来を担う子どもたちに役立つことを祈念して、約700冊の絵本やソファー、じゅうたんなどを整備。ゆっくりとくつろいで、本をご覧いただけるコーナーとなりました。

「科学あそび教室」を開催　丹後図書室

「ゴムで遊ぼう！！ビョーンとピョーン」をテーマに、10月25日、「科学あそび教室」を開催しました。大型絵本の読み聞かせのあと、小枝に輪ゴムをくっつけて上下に「ビョーン」と伸ばすと、みんなの思い思いに描いた絵がトットットと落ちていったり、半分に折った紙に描いた絵がゴムの力で「ピョーン」とひっくり返るなど、輪ゴムの不思議を味わい、楽しいひとときを過ごしました。

12月の休館日
14日(月)・21日(月)・28日(月)～31日(木) (28日は館内整理日)

1月の休館日
1日(金)～5日(火) (5日は館内整理日)

※休館日は、12月10日以降から1月10日までを掲載しています。

下水道 接続のご案内　第4回

京丹後市では、平成9年3月31日から下水道の一部が供用開始されており、現在も整備区域の拡大を進めています。このコーナーは、下水道が整備されている地域で、下水道への接続がいっそう図られるよう、市民のみなさんの「下水道」に対する理解をいっそう深めていただくことを目的に、「下水道」の接続についてお知らせします。

今回は「下水道の使用上の注意」についてご案内します。

下水道は何を流してもいいというものではありません。下水道は、みんなで使う公共の財産です。下水道を使う一人一人がルールを守って正しく使いましょう。

1 台所の調理くずを流さないで

野菜くずや残飯などは宅内配管や公共汚水ますを詰まらせたり、腐敗して悪臭の原因になるほか、処理場の働きも低下させます。

2 天ぷら油やサラダ油の廃油を流さないで

食用廃油は、下水道管に付着したり、石けんと化合して固まったりするために管を詰まらせ、処理場の働きも低下させます。

3 洗剤の使用にはご注意を

富栄養化防止の立場から洗剤を買うときは、石けんや無リン、合成洗剤を選びましょう。

4 危険物は下水に捨てないで

ガソリン、シンナー、石油、アルコールなどの揮発性の高い危険物を流すと、大爆発を起こす原因となります。

5 水洗トイレには水に溶ける紙を

トイレでは水に溶ける紙を使いましょう。また、トイレには紙おむつ、生理用品、下着、ビニール製品なども流さないでください。下水道管だけでなく、宅内排水設備を詰まらせる原因になります。

6 マンホールの「ふた」を開けないで

マンホール、公共ますの「ふた」を開けることは非常に危険です。

人身事故や大雨のときに、下水が噴出する原因になりますので、絶対に開けないでください。

下水道接続に関するお問い合わせ先
上下水道部下水道整備課（☎69-0550）
Eメールアドレス gesuido@city.kyotango.kyoto.jp

下水道使用料に関するお問い合わせ先
上下水道部普及推進・料金課（☎69-0540）
Eメールアドレス fukyu@city.kyotango.kyoto.jp

ますます積極的な生き方の創造と地域の活性化に向け

市内初 60のつどい（還暦式）を開催

NPO法人 気張る！ふるさと丹後町

地域住民自らが地域活力の増進を図ることを目的に設立されたNPO法人「気張る！ふるさと丹後町」（小倉剛成理事長）の主催による「六十のつどい（還暦式）」が、十月二十四日、丹後地域公民館（丹後町間人）で開催され、丹後町在住で今年度に還暦を迎えられるかたなど約五十人が出席され、新たな門出を祝しました。

市内を中心に京阪神などから約50人が参加

六十のつどい（還暦式）は、還暦を迎えるかた同士が交流を深め、「ますます積極的な生き方の創造」と「地域の活性化」をめざす取り組みです。対象は、昭和二十四年四月二日～昭和二十五年四月一日生まれの丹後町在住および間人・宇川中学校を卒業されたかたで、みなさんが「これまで培ってこられた知識や経験などのさらなる習熟や、新たな技能の修得を図るための生涯学習」および「これらを活用した地域参画」のきっかけをつくることを目的に開催されました。

木村次郎右衛門さんからもメッセージ

式典では、小倉理事長が「これからの高齢化社会をどのように生きていくのかということについても、考えてもらえる一助になればと思っています。こういった取り組みが地域の活性化のきっかけになることを願っています」とあいさつ。「NPO法人気張る！ふるさと丹後町」の事務局からは、「丹後で生活されているかたもそうでないかたも、それぞれの立場でふるさとのためにご活躍いただきたい」と呼びかけられました。

また、男性長寿日本一の木村次郎右衛門さん（丹後町中野）からのビデオレターも披露。還暦を迎えられるかたへ「その日その日を完全に過ごしていただきたい。苦にするな嵐の後に日和あり。何ら苦にすることや悲観する必要はないと存じます」とメッセージが贈られました。

式典に参加されたかたの中には、「中学校卒業以来に再会するかたもいた。これをきっかけに多くの人との交流を深めたい」と話されました。

木村次郎右衛門さんから還暦を迎えるかたへビデオメッセージ

丹海バス
車内で回数券をお買い求めいただけます
お得・便利

回数券の種類
普通回数券 ▶11回分 2,000円（1回あたり182円）
昼間回数券 ▶13回分 2,000円（1回あたり154円）
使用は、10:00～16:00の間に降車する場合に限ります。
通学回数券 ▶13回分 2,000円（1回あたり154円）
学生証をご提示ください。

蒲井・旭地域の振興に向けて

田舎の隠れ宿 蒲井温泉「長者の湯」 いっぺん庵 竣工

市全体の交流人口増加を推進

久美浜町の蒲井・旭地域の振興をめざし、同地域のみなさんが主体となって整備を進めてこられた新たな温泉宿泊施設「いっぺん庵」が完成し、十月二十三日、竣工式が開かれました。

同施設は、大浴場や露天風呂のほかに、七室ある離れにはすべて、源泉掛け流しのヒノキの内湯と露天の長州風呂が設置されています。

整備にあたっては、京丹後市と同地域のみなさんとで平成十八年二月に策定した「京丹後市蒲井・旭地域振興計画」に基づき実施。地元のみなさんで組織する「株式会社風蘭」を設立し取り組んでこられました。また建設費などは、〝同地域の振興のため〟として関西電力株式会社から受けた寄付金を財源とする「蒲井・旭地域振興基金」が充てられています。

また同地域では昨年、同じく京丹後市蒲井・旭地域振興計画に基づき、日本海を一望できるツリーハウスの制作を実施。さらに、都市部のかたが野菜づくりなどを体験できる滞在型市民農園施設「クライガルテン」の整備も遊休農地などを活用し進められています。同地域では今後、これらのさまざまな観光資源を活用し、体験型・滞在型観光を推進するなど、市全体の交流人口の増加をめざし取り組まれる予定です。

竣工を祝いテープカット

施設の概要

構造	木造平屋建て
延べ床面積	870.48平方メートル
温泉湧出量	498リットル毎分
	泉温 35.4℃

■お問い合わせ先
〒629-3424
京丹後市久美浜町蒲井522-1
☎0772-83-9050
URL www.1-pen.net
Eメール info@1-pen.net

北近畿タンゴ鉄道 「まるごと丹後 2days 乗り放題きっぷ」
お得・便利
好評発売中

お値段／おとな2,500円 こども1,250円

商品内容
★北近畿タンゴ鉄道線内の全区画、特急列車を含めた全ての列車において、連続する2日間（土曜・日曜・祝日のみ）、自由席が乗り放題。

お問い合わせ先：北近畿タンゴ鉄道（☎0772-22-8571）

障害についての理解を深める
京丹後市 車いす駅伝大会 初開催
京丹後市身体障害者団体連合会

十月二十五日、市役所峰山庁舎周辺で「第一回京丹後市車いす駅伝大会」（主催・京丹後市身体障害者団体連合会　日下進会長）が行われました。この新しい取り組みにひかれ集まった十五チーム七十五人の参加者のみなさんは、慣れない車いすの操作にとまどいながらも、笑顔で約一・二キロのコースを力走しました。

秋晴れの空の下走り出す選手のみなさん

同大会は、車いす駅伝競技をとおして障害についての理解を深めるとともに、車いすを体験することで地域のバリアフリー化の推進を図り、また参加されるみなさんと交流することで、障害者のみなさんの社会参加を促進することを目的に、今回初めて開催されました。

競技は、市役所峰山庁舎玄関前をスタート・ゴール地点として、小西川沿いをぐるりと回る約一・二キロのコースを五人でリレーするかたちで実施。障害者団体や福祉団体、中学・高校生、市議会議員、市役所職員などさまざまなかたが参加され、中には着ぐるみを着用するチームや、車いすを風船などで飾り付けて挑むチームもあり、参加者にも沿道で見守るかたがたにも笑顔の絶えない大会となりました。

また同大会は、ふれあいの場として開催されているため、単に速さを競うのではなく、競技前にあらかじめ予測し申告しておいたゴールまでの所要時間と、実際の所要時間との差によって順位を決める方式を採用。そのためゴールを急ぐ必要がなく、応援のかたと一緒に走ったり、ゴール前でパフォーマンスを披露したりと、終始和やかな雰囲気の中で競技が展開されました。

参加されたかたは「車いすには初めて乗ったが、まっすぐ走るだけでも本当に難しい。普段歩いているときには気にもしないようなちょっとした段差や坂道でも、車いすだとすごく辛いことが分かった」と話してくれました。

着ぐるみを身にまとい力走

ゴール前でパフォーマンス

発行／京丹後市役所　　編集／秘書広報広聴課
〒627-8567　京都府京丹後市峰山町杉谷889
☎0772-69-0110　FAX.0772-69-0901
ホームページ　http://www.city.kyotango.kyoto.jp
E-mail　hishokoho@city.kyotango.kyoto.jp

人口・世帯数

男	29,997人（−25）
女	32,007人（−23）
計	62,004人（−48）
世帯数	22,152世帯（−8）

（11月1日現在・（）内は前月比）